

## 環境水等の放射性セシウムモニタリング コンソーシアム 平成 28 年度事業計画

### 1. コンソーシアム設置の背景・経緯

水中の放射性セシウム濃度の適切な把握は、福島第一原子力発電所の事故で放出された放射性セシウムの長期環境動態評価、作物への移行等、多方面にわたる基盤情報であり、その技術性能評価は前述の研究や作物の安全評価、ひいては国民の安心・安全に連結している。

2014 年頃より日本国内の水中の放射性セシウムモニタリング技術について、地圏資源環境研究部門内に国内の専門家から構成される委員会を設置し、国内標準化を進めてきた。標準化や精度評価試験の成果は、地圏資源環境研究部門より「技術資料\*」として公開されている。

\*<https://unit.aist.go.jp/georesenv/information/20150917.html>

これらの国内標準化は、技術資料公開という形で一段落したものの、国内のモニタリングを実施している企業や研究機関から、環境水を用いた精度評価試験の継続的な実施や、新たなモニタリング技術の技術研修等の機会を設けることに対する要望があった。

このような背景のもと、日本国内における低濃度の水中の放射性セシウムモニタリング技術の普及や技術レベルの向上、さらには国際的な連携を含めてコンソーシアム\*設置が必要との結論に至った。

\*産総研コンソーシアムとして設立いたしました。産総研コンソーシアムとは、産総研が企業・大学等から会員を募り、会費（負担金）又は寄附金をいただいて産学官連携の支援、成果の利用の促進、情報の収集及び提供等のため、テーマ別の研究会です。

### 2. 平成 28 年度の活動方針

環境水等の放射性セシウムモニタリング技術の普及・発展・技術の向上を図ることで、技術の信頼性を高めるとともに、合理的なモニタリングの実施、さらに国際社会への貢献を目的とする。

### 3. コンソーシアムの事業

#### 3. 1. コンソーシアムの事業

規約にある通り、以下に示す 5 つの事業を実施する予定である。これらの事業については、WG 活動等と連携して進めていく。

- 一 国内における環境水等の放射性セシウムモニタリングの研究会開催  
(年 2-3 回を予定)
- 二 国内における環境水等の放射性セシウムモニタリングの技術研修会開催  
(年 1-2 回を予定)
- 三 環境水等の放射性セシウムモニタリングの精度評価試験の実施  
(年 1-2 回を予定)
- 四 環境水等の放射性セシウムモニタリングの技術資料の改訂
- 五 国際的な情報発信・連携 (IAEA や IRSN と情報交換を予定)

#### 3. 2. 本年度の事業活動 (WG 活動含む)

本年度実施する具体的な活動としては以下のとおりである。

- ① 研究会の開催 (2 回を予定。本日 / 3 月に予定)
  - ・最新の技術情報の共有
  - ・精度評価試験の結果のレビューを含む
- ② 技術研修会の開催 (3 月に 1 回を予定。1 泊 2 日)
  - ・研究会と合わせて開催予定す。
  - ・現地サンプリング、前処理、濃縮等の一連のプロセスを学習。
  - ※技術研修会 WG を組織する可能性あり。
- ③ 精度評価試験の実施
  - ・11 月～12 月にかけて実施予定。30 機関募集予定。
  - ・10L の低濃度の  $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$  の前処理、測定を実施予定。
  - ・濃度レベルは 10L 濃縮で定量できるレベル。。
  - ・当該水は、IAEA にも 30 サンプルを送付して欧州の PT にも使用される予定。
  - ・内、10 機関は IAEA プロジェクトにも参加募集予定。(IAEA 側から 2 種類の水が日本に送られてくる。)
  - ( RER/7/008 "Strengthening Capabilities for Radionuclide

Measurement in the Environment and Enhancing QA/QC System for Environmental Radioactivity Monitoring".)

※精度評価試験 WG を組織する可能性あり。

④ 技術資料の改訂について

・技術資料をハンドブック等の本として出版することに対して、議論を深めたいと考えております。もし進める場合には、WG 活動として進めたいと存じます。

4. 運営委員会の開催

本コンソーシアムでは、会員による以下の会合を開催する。

(1) 運営委員会の会合

対象 : 運営委員

内容 : コンソーシアムの運営・活動の活性化の検討等

開催頻度 : 2 ヶ月に 1 度程度

方法 : 対面会議以外に、メール審議、電話会議等を活用する。

(2) 個別 WG の会合

対象 : 個別ワーキンググループのメンバー、希望者

内容 : WG テーマに対する対応、勉強会等

開催頻度 : 適宜

また、会員向け以外に一般向けのイベントとして、コンソーシアムの成果を周知する会合を開催する可能性がある。

## 5. コンソーシアムの運営

本コンソーシアムは以下で運営される。

会長 : 保高徹生 (産業技術総合研究所)

副会長 : 本日決定予定

監事 : 本日決定予定

アドバイザー:

恩田裕一 (筑波大学)

信濃卓郎 (東北農研)

林誠二 (国環研)

塚田祥文 (福島大学)

青野辰雄 (放医研)

内田滋夫 (放医研)

運営委員:

保高徹生

申文浩 (東北農研)

辻英樹 (国立環境研究所)

高田モモ (産業技術総合研究所)

事務局 : 保高徹生、高田モモ

## 6. 本年度主なスケジュール (案)

- ・ 10 月 21 日 : 総会、第 1 回研究会
- ・ 11 月-12 月 : 国内 PT、IAEA-PT
- ・ 3 月 : 第 2 回研究会、技術研修会

状況に応じて、適宜 WG を組織して活動。